

2016 年度卒業生に贈る言葉

「100年ライフ」という言葉を知っていますか？

これは、リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット著、池村千秋訳(2016)『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』東洋経済新報社、で語られている言葉です。この本の内容をかいつまんで紹介しますね。

今や人生は100年。しかし、今の日本では「長寿化の負の側面」ばかりが話題にされるのも事実です。トーマス・ホップズは「人生は、不快で残酷で短い」という言葉を残しました。しかし、現在は「人生は、不快で残酷で長〜い」という現実があります。

医療の進歩により「健康長寿」が当たり前になるでしょうが、今はその過渡期にあるといえるでしょう。そのため「寝たきり」や「認知症」「老人性うつ」が話題になるのです。今後、長く生きられるようになった年月の大半を、健康に生きられることになり、若々しく生きる年数が長くなるというのです。

従来までの人生は、「教育→仕事→引退」という3ステージで考えれば良かったのですが、今後は「仕事」のステージがますます長くなるでしょう。70~80歳まで?!働けますか。100歳まで「生きる」をイメージするとき、60代で引退し、その後、30~40年をどう生きますか。

大学で様々なスキルを身につけたと思いますが、自分のスキルの価値は、瞬く間に変わる時代になります。そういう時代には、手持ちのスキルで「良し」とせず、新しいスキルの習得に力を注ぐ必要が出て来るでしょう。つまり、人生の途中で「変身」を遂げる必要性が高まるというわけです。

「100年ライフ」を視野に入れると、「3ステージの人生」から「マルチステージの人生」を考慮し、人生で2~3つのキャリアをもつための力が必要になります。そうした力を身につけていくために重要なポイントは、「自分を知る」「仲間を作る」「変身する」なのです。

今日、「卒業」という「自己資産」を手に入れた皆さんは、大学時代に様々なモノや事を吸収し、視野を広げ、人生の種を蒔いてきたと思います。蒔いた種を芽吹かせ、成長させていくためには栄養と時間が必要です。皆さんは、とても大切な、人生で大いに役立てることが出来る「資産」を、大学を卒業するという形で手に入れたと思います。その「資産」を埋もれさせ、錆付かせないでほしいと思います。

国家試験の結果が不本意なものであった学生は、再挑戦のために通信教育講座や課程を活用してほしいと思います。

結果が出た学生は、資格取得後に社会福祉士会など職能団体を活用し、さらに自分を見極めてください。そういう組織に加入して、現場で有効に活用できるネットワークを育ててほしいと思います。現場の人々も懸命に学んでいます。

2017年度は本学部創設20周年に当たります。様々なイベントが予定されていますので、それを活用して「資産」を輝かせてください。輝かせるために是非、参加・協力してほしいと思います。